

## 気象庁の地域防災支援の取組について



気象庁 総務部長 小林 豊

気象庁マスコットキャラクター はれるん

**2025年6月1日は気象業務150周年！**

近年相次ぐ自然災害を踏まえ、気象台は・・・

- 市町村、都道府県、関係省庁の地方出先機関等と一体となって**住民の具体的な防災行動に結びつく**よう、**地域の気象防災に一層貢献**
- 防災の最前線に立つ市町村に対し、既存の防災気象情報や“危険度分布”（キキクル）等の新たな情報を**緊急時の防災対応判断に一層「理解・活用」（読み解き）**いただけるよう、**平時からの取組を一層推進**



「地域における気象防災業務のあり方検討会」（H29.4～7；全3回開催）

- 自治体や地域住民に防災気象情報を理解・活用いただくため、災害時・平時ともに様々な取組を推進。
- 各気象台に地域ごとの災害特性を踏まえた担当チーム「あなたの町の予報官」を編成し、自治体と緊密な連携関係を構築。
- 気象台による支援に加え、予報の解説から避難の判断までを一貫して扱える気象防災アドバイザーの自治体における活用も促進。

## 災害時における取組

- 気象台、地方整備局が共同で記者会見を実施。
- 積極的にJETT（気象庁防災対応支援チーム）を派遣。
- 気象台から市町村長へホットラインを実施。



福岡管区気象台と九州地方整備局による合同記者会見（令和2年7月豪雨）



熊本県人吉市へのJETT派遣（令和2年7月豪雨）  
災害対策本部会議において、気象の見直しを解説

## 平時における取組

- 首長訪問や「あなたの町の予報官」の編成等により、平時から市町村との“顔の見える関係”を構築。
- 自治体向けの気象防災ワークショップを開催。
- 災害後に自治体と共同で「振り返り」を実施。



気象台による首長訪問



自治体向け気象防災ワークショップ

## 気象防災アドバイザーの活用

- 気象情報の読み解きに基づく避難指示発令の判断の支援。
- 避難対象区域や避難所開設の判断を支援。
- 地域防災計画等の見直し推進。
- 自主防災組織や学校の防災訓練における講演等を実施。



災害対策本部訓練における活動



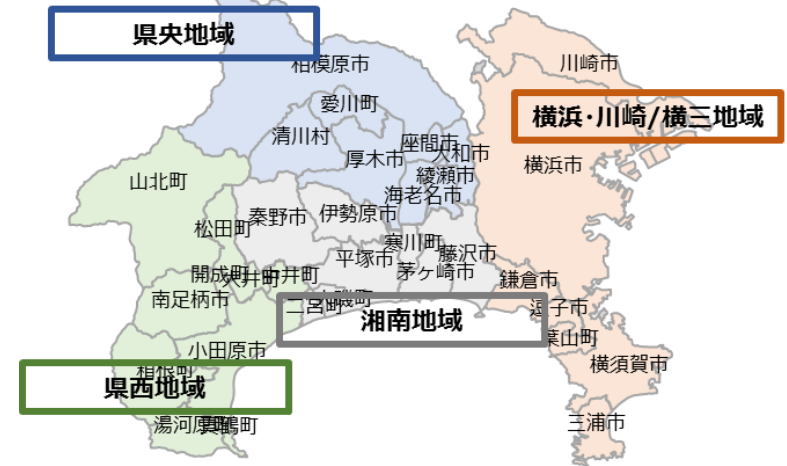
市民を対象とした講演

- 府県内を複数の市町村からなる「地域」に分け、その地域毎に気象台内に5名程度の「担当チーム」を編成。
- 平時から「顔の見える関係」を構築。
- 担当チームの設置により、市町村に寄り添い、担当者同士の緊密な関係の構築が可能。
- 気象・気候・地震・津波・火山等に関する“ワンストップ”での支援。

## 【具体的支援例】

- 地域に密着した日頃からの解説
- 防災対応マニュアル、地域防災計画等見直しへの助言
- 気象や地震・津波・火山等の特性・災害リスクを共有
- 実践的な研修・訓練
- 協議会の枠組での防災対応検討（河川、火山）
- 災害後における緊急時の対応の「振り返り」等

## （神奈川県の場合）



あなたの町の予報官  
(5名程度のチーム)



市町村訪問



防災計画  
への助言



日頃からの  
解説



災害後の  
「振り返り」

## 地域防災計画等の見直しへの協力 ～新潟県内市町村の例～

- 地域防災計画の避難情報発令基準と「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）を照らし合わせ、防災気象情報に関する具体的な修正案を市町村の新任職員でも分かりやすい記述で提案し、「あなたの町の予報官」から市町村担当者に助言を実施。

➤ この助言を踏まえて、洪水キキクル等の防災気象情報を用いた避難情報の発令基準を新たに地域防災計画に記述する市町村が増加。

## 地域に密着した日頃からの解説 ～東京都内の区市町村の例～

- 「あなたの町の予報官TV」の名称で、Zoomミーティングにより平日の11時15分から5分程度、区市町村向けに気象解説を実施。



自治体からのご意見

- 悪天が予想されるときは幹部が集まり全員で視聴している。
- 説明のあった内容を幹部や関係者に共有し、体制を検討する際の参考にしている。

- **避難情報発令の判断を疑似体験**することができる、自治体向けの**気象防災ワークショップ**を全国各地の気象台で開催。

## 気象防災ワークショップの実施例



多機関連携した集合形式での開催



オンライン会議を活用した開催

- 気象情報等に関する資料から状況を読み取るためのスキルは、やはり研修やワークショップで習得していかななくてはならないと感じた。
- 市町村の担当者は数年で異動となることが多く、新任の担当者にとっては、非常に役立つ。
- 近隣の市町村防災担当者と防災対応策に関する情報共有も行えた。



全国の  
自治体からの  
ご意見

- 災害の発生が予想されるような顕著な現象の場合は、気象台が持つ危機感を**気象台長から直接市町村長へ電話で伝え、避難情報に関する助言を行うホットライン**を実施している。
- このほか、気象台と自治体の担当者同士でも随時の電話連絡（担当者ホットライン）を取り合っている。

## 令和5年7月10日福岡県で大雨特別警報が久留米市に発表された事例



福岡管区気象台

- 前日の9日にいったん雨が弱まり警報を解除するタイミング（下図★）で、翌日10日にふたたび非常に激しい雨が降り、土砂災害警戒情報を発表する可能性があることを助言。



- 通常は警報解除で全避難所を閉鎖するが、気象台からのホットラインでの解説を受け、一部の避難所は残すという判断をした。ホットラインが活きた。



久留米市

- **JETT (気象庁防災対応支援チーム JMA Emergency Task Team)** は、自然災害等により大規模な被害が発生した又は発生が予想される場合に地元気象台の職員を自治体へ派遣し、防災対応を支援する取組。

## JETTの活動の例 (令和6年能登半島地震)

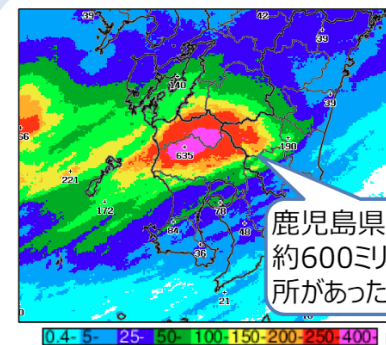


- 現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえ、地震活動の状況や今後の気象の見通し等のきめ細かな解説を行い、自治体や各関係機関の防災対応を支援。

- 気象台の発表する防災気象情報や自治体支援および市町村の防災対応の双方について、**自治体と気象台相互の理解を深め、更なる改善につなげていく**ことを目的とし「振り返り」を行う。

## 鹿児島県さつま町と鹿児島地方気象台で実施した「振り返り」の事例

- 令和3年7月9日夜から10日にかけて九州南部を中心に線状降水帯が発生。
- さつま町では、人的被害はなかったものの、河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生し、住家被害が発生。夜間に避難情報を発令するという状況に苦慮。



- この災害を受け、さつま町は、鹿児島地方気象台と共同で振り返りを実施。
- さつま町では、住民の夜間の避難行動を極力避けるため、夜間に災害が発生する可能性がある際には明るいうちに避難情報を発令する方策を検討。
- その判断に、気象状況の悪化が見込まれる際に気象台が実施するオンラインの気象解説を参考にすることに。



- 令和4年7月14日の大雨では、気象台からの解説を踏まえ、夜間に災害が発生する可能性を考慮し、さつま町は明るいうちに高齢者等避難を発令。

地域の課題を詳細に聴き取り、詳細な地形をふまえた  
適確な助言を実施！

## 〈気象防災アドバイザーとは〉

- 所定の研修を修了した**気象予報士**や**気象庁退職者**等に**国土交通大臣が委嘱**する気象防災のスペシャリストで、災害の発生が迫る限られた時間の中で**予報の解説から避難の判断まで**を一貫して扱える人材。
- **防災基本計画**において、地方公共団体が防災教育や人材育成、避難情報の発令等に関し、気象防災アドバイザーの知見の活用を推奨。
- **地方公共団体の職員として**採用された場合、**避難情報発令について首長への進言**等を実施。
- 気象庁では、気象防災アドバイザー人材の拡充のため、気象庁退職者等への委嘱を推進するとともに、気象予報士を対象とした気象防災アドバイザー育成研修を実施。

## 〈活動内容の例〉

### 平時の対応



地域住民を対象とした  
防災に関する講演会の講師

- 地方公共団体内の研修や訓練の企画・運営を通じた人材育成
- 地域住民を対象とした普及・啓発
- 避難情報発令基準やタイムライン等の防災計画の策定・改善
- 日々の気象解説

など

### 大雨等の防災対応時の対応



市役所での災害対策本部訓練  
における解説

- 避難情報発令についての首長への進言  
(防災情報や河川水位を読み解き、各地区の地形特性を踏まえ、首長に地域防災計画に基づく避難情報発令について進言)
- 気象状況や河川水位に対する危機感、避難所の開設・閉鎖の見通しについての職員への解説

など

令和6年4月時点：**272名に委嘱中**

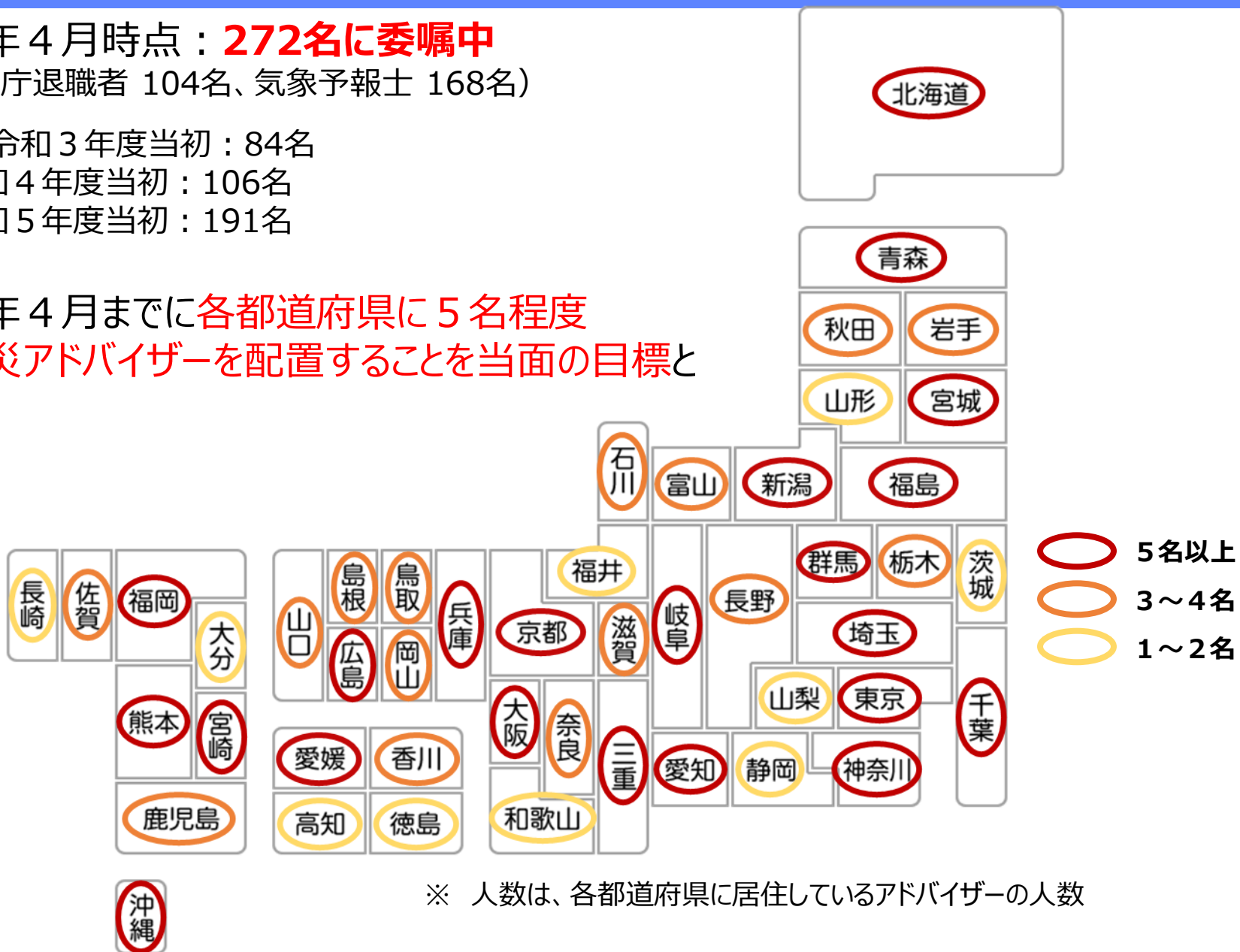
(うち気象庁退職者 104名、気象予報士 168名)

(参考) 令和3年度当初：84名

令和4年度当初：106名

令和5年度当初：191名

令和7年4月までに**各都道府県に5名程度**  
**気象防災アドバイザーを配置することを当面の目標と**  
**する。**



※ 人数は、各都道府県に居住しているアドバイザーの人数

都道府県	人数
北海道	52
青森県	45
岩手県	46
宮城県	50
秋田県	45
山形県	44
福島県	48
茨城県	53
栃木県	50
群馬県	54
埼玉県	64
千葉県	63
東京都	77
神奈川県	64
新潟県	47
富山県	45

都道府県	人数
石川県	43
福井県	42
山梨県	49
長野県	48
岐阜県	48
静岡県	51
愛知県	50
三重県	48
滋賀県	48
京都府	54
大阪府	58
兵庫県	51
奈良県	47
和歌山県	50
鳥取県	45
島根県	47

都道府県	人数
岡山県	46
広島県	48
山口県	47
徳島県	41
香川県	44
愛媛県	42
高知県	41
福岡県	53
佐賀県	46
長崎県	43
熊本県	47
大分県	44
宮崎県	46
鹿児島県	44
沖縄県	43

※ 令和6年度現在、現地で対応可能な人数のみを集計。  
 ※ 複数の都道府県で活動可能な場合は、重複して集計。

## 令和5年度：40団体 41名（重複なし）

（参考）単発の依頼への対応を含めた各年度の合計の任用実績

令和2年度：9団体、令和3年度：13団体、令和4年度：36団体

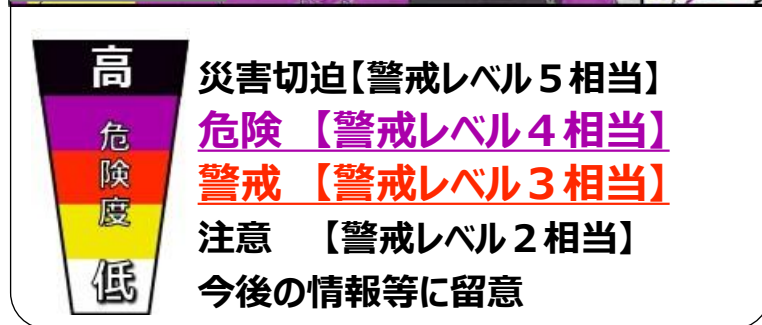
● 北海道 滝川市	1名	● 新潟県 阿賀野市* <sup>1</sup>	1名	● 兵庫県 神戸市* <sup>1</sup>	1名
● 群馬県 前橋市* <sup>1</sup>	1名	● 石川県 金沢市* <sup>2</sup>	1名	● 兵庫県 宝塚市* <sup>1</sup>	1名
● 群馬県 渋川市* <sup>1</sup>	1名	● 岐阜県* <sup>2</sup>	8名	● 鳥取県 米子市* <sup>2</sup>	1名
● 埼玉県 熊谷市	1名	● 静岡県 函南町	1名	● 島根県 雲南市* <sup>2</sup>	1名
● 埼玉県 加須市	1名	● 愛知県 岡崎市* <sup>2</sup>	1名	● 島根県 奥出雲町* <sup>2</sup>	1名
● 埼玉県 入間市* <sup>2</sup>	1名	● 愛知県 春日井市* <sup>2</sup>	1名	● 島根県 飯南町* <sup>2</sup>	1名
● 埼玉県 嵐山町	1名	● 愛知県 刈谷市* <sup>2</sup>	1名	● 広島県 広島市	1名
● 千葉県 市川市	1名	● 愛知県 豊田市* <sup>2</sup>	1名	● 山口県	1名
● 千葉県 野田市* <sup>1</sup>	1名	● 愛知県 東三河地域防災協議会* <sup>2</sup>	1名	● 山口県 防府市	1名
● 千葉県 柏市	1名	● 三重県 教育委員会* <sup>2</sup>	1名	● 大分県* <sup>2</sup>	1名
● 東京都 葛飾区* <sup>1</sup>	1名	● 三重県 明和町* <sup>2</sup>	1名	● 宮崎県 宮崎市* <sup>2</sup>	2名
● 東京都 江戸川区* <sup>1</sup>	1名	● 大阪府 豊中市* <sup>2</sup>	4名	● 鹿児島県* <sup>2</sup>	1名
● 東京都 大島町* <sup>1</sup>	1名	● 大阪府 八尾市* <sup>2</sup>	3名	● 沖縄県 糸満市	1名
● 新潟県 三条市* <sup>1</sup>	1名				

\*1 気象防災アドバイザーを会計年度任用職員として採用し、市役所の防災課等に配置している地方公共団体。

\*2 気象防災アドバイザーに対し、各地方公共団体独自のアドバイザーを委嘱し、防災対応や研修など必要時に複数回招聘している地方公共団体。

「キキクル」を見ると、**地図**上で**危険度分布**が**確認**できます。

土砂・洪水キキクルの **紫** は **警戒レベル4相当** です。



この雨大丈夫？そんな時  
**キキクル**  
大雨・洪水警報の危険度分布

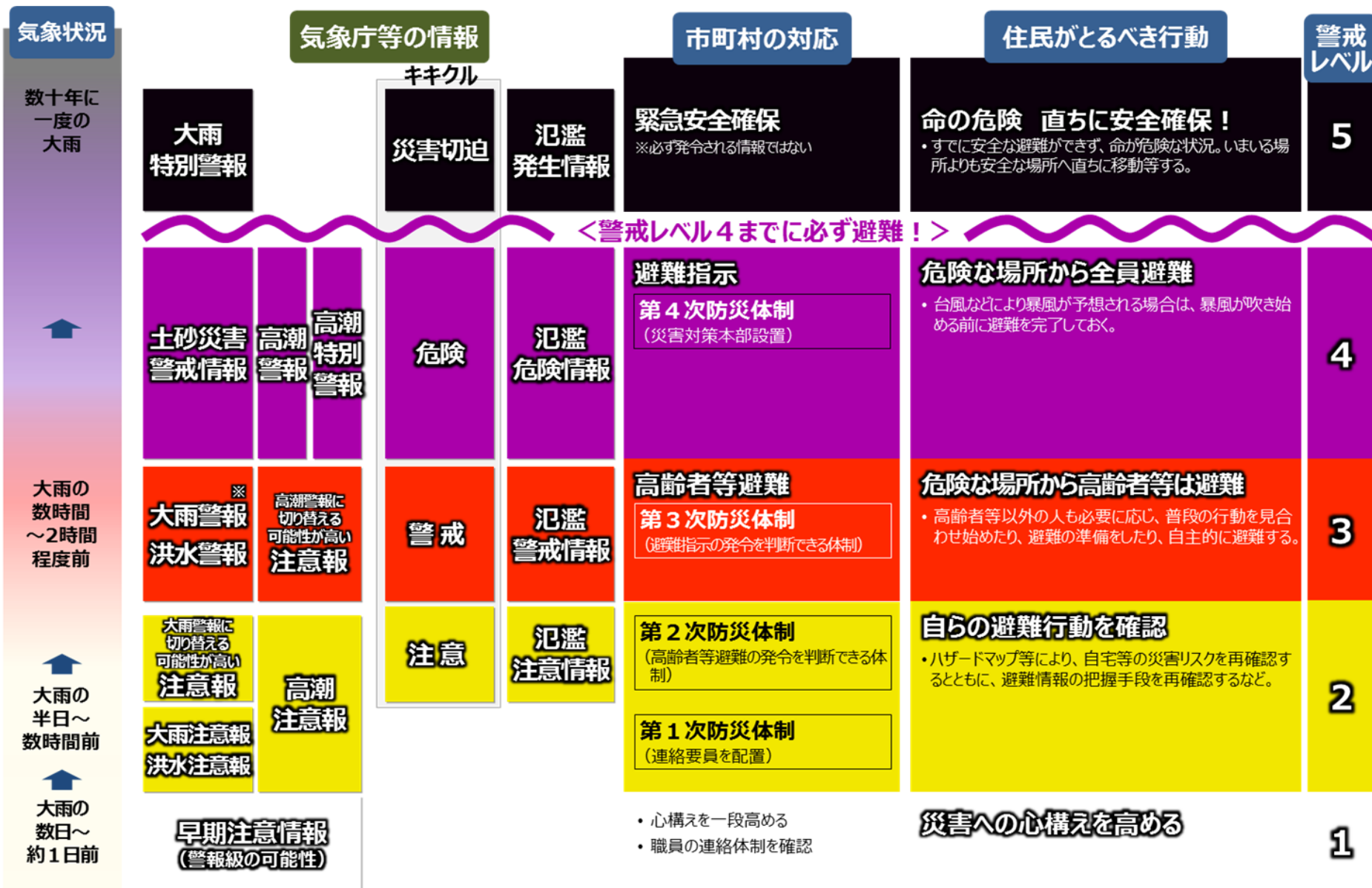


どしゃさいがいけいかいじょうほう

土砂災害警戒情報や洪水警報等が発表されたら、

**キキクルを確認！**

# 5段階の警戒レベルと現状の防災気象情報



※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3 (高齢者等避難) に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3 (高齢者等避難) に相当します。

※2 「極めて危険」(濃い紫) が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。

## ＜開催趣旨＞

防災気象情報については従前より「情報の数が多すぎる」「名称がわかりにくい」といった課題があり、「防災気象情報の伝え方に関する検討会」においては「防災情報全体の体系整理、及び個々の防災気象情報の抜本的な見直しを行うべき時期に来たと捉え、中長期的に腰を据えて検討していくべき」との提言を受けた。

これを受け、防災気象情報全体の体系整理や個々の防災気象情報の抜本的な見直しなどの中長期的な検討事項を中心に議論を行う場として開催。なお、事務局は水管理・国土保全局と気象庁が共同で運営。

## ＜警戒レベル相当情報の名称検討＞ ⇒ 令和6年6月18日に最終とりまとめ公表

### ＜改善案＞

### 防災気象情報（警戒レベル相当情報）

### 警戒レベル

発表主体	洪水に関する情報「洪水危険度」		大雨浸水に関する情報「大雨危険度」	土砂災害に関する情報「土砂災害危険度」	高潮に関する情報「高潮危険度」
	大規模河川の外水氾濫		内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫		
	洪水予報河川	水位周知河川			
発表単位	河川ごと		市町村ごと	市町村ごと	沿岸ごと
警戒レベル相当情報	5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
	4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

市町村の対応	警戒レベル
緊急安全確保	5
避難指示	4
高齢者等避難	3
要員配置 防災体制確保	2

・ 情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。

# ご清聴ありがとうございました



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん誕生20周年

はれるん20周年HP



フジテレビドラマ「ブルーモーメント」



気象庁は、本ドラマを防災知識普及の好機と捉え、協力しています！